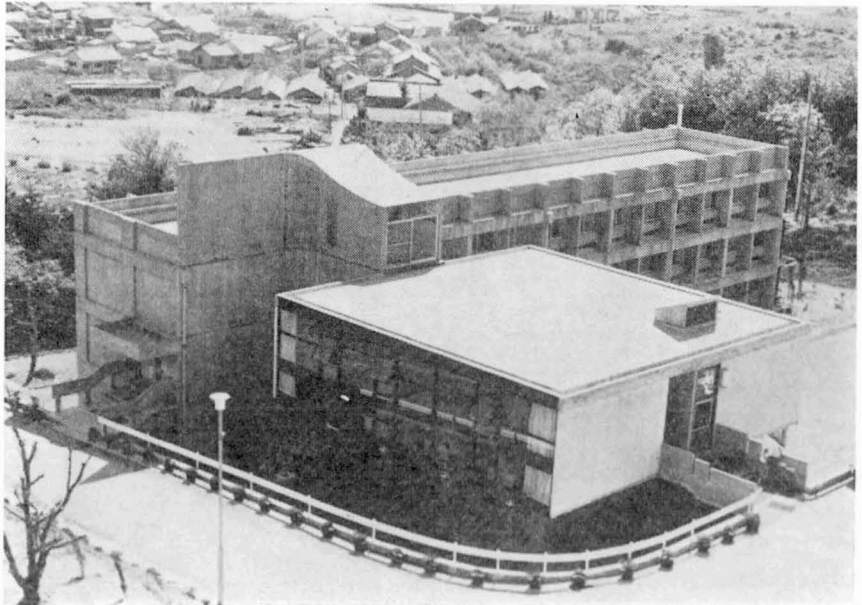

靈長類研究所年報

VOL. I
1971

PRIMATE RESEARCH INSTITUTE
KYOTO UNIVERSITY



研 究 所 研 究 棟

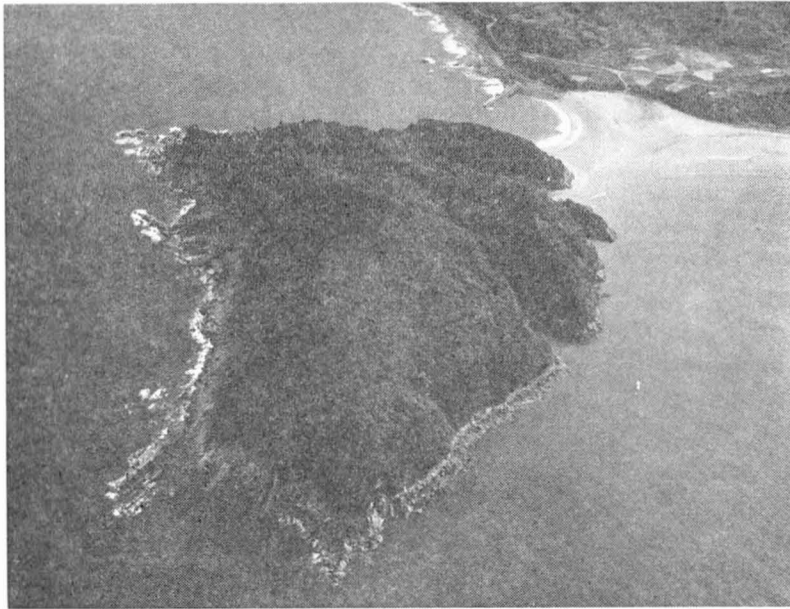


共 同 利 用 研 究 員 宿 泊 棟

(I)



幸 島 の サ ル



幸 島 全 景

(I)

序に代えて

霊長類研究所の創立は昭和42年6月1日であるから、もう満4年になるが、この年月はあっというまに過ぎてしまったという感じがする。それは当初からどうしたらよいか判断に苦しむことがあまりに多かったこと、その難題を処理するだけの時間的ゆとりも許されなかったからだろう。例えば研究棟建設のために敷地の視察に私がでかけたのは42年7月であったが、そこで先ず起った疑問は限られた面積、しかも溜木におおわれてはいるが凹凸の激しさが予見される土地に霊長研の業務を遂行するだけのものを建てられるかどうか、どうして水を引き上げるか、サルを陽のあたらない地下に押しこめてよいものかどうか、宿舍をどこに建てるか、などであった。しかしこれらの設立直後におこった問題は、関係当局の御理解により徐々に解決されつつある。

開所式は44年6月2日に行なわれた。ここで私は一区切りをつけたいと考え、創設の美名におぼれることなく研究の成果をあげていきたいと御挨拶したが、所員一同であたっている業務は、年を追うごとに繁雑となり、またきびしさが加重されている。このような業務の歴史は、好むと好まざるとにかかわらず進行中であり、老いの線り言に似たことに紙幅を割き、それを今から過去に埋没させることもいかかと思われる。

しかし研究の推移には緩急のちがいはあっても、それは旧も新もないものであろう。また研究の流れがどこへ行きつくのか誰しも目標を立て予測しているところではあるが、直言はむづかしいと思われる。この流れを年ごとに受けとめ年報として再現したいと考えるにいたったのは、同学の方々と合流の強さを期待し、そして時流にくみすることなく目標の設定をひろく行いたいからである。年報の内容については、共同利用研究に傾きすぎているという御批判を受けるかも知れない。端的に申すと、不十分な研究費や設備と、犬山特有の食生活や交通の不便をかこつことなく熱心に研究して下さった共同研究員の業績を先ず記しとどめておきたいという存念からである。

この年報が幾分でも当研究所の紹介にもなり、全国の同じ志向をもつ方々の研究の連絡ひいては進展のよすがともなれば望外のよろこびである。また当研究所の創設にあたって下さった方々は、あまりに多く一々御礼を申し上げることも致していない。この年報の上梓が、この非礼に対するおわびのしるしとなるとは思わないが、年報の版を重ねるということでお許しいただきたいと存ずる次第である。

昭和46年6月1日

所長 近藤 四郎

目 次

序

I 研究所の概要

1. 沿革と目的	1
2. 組織	1
3. 予算概況	1
4. 研究設備	2
5. 研究活動	3

II 総 説

— 霊長類学への展望 —

1. 形態学の立場から	16
2. 神経生理学の立場から	24

III 共同利用研究

1. 共同利用研究概要	29
2. 研究成果	30
3. シンポジウム・研究会	87

昭和46年9月20日発行

発行所 京都大学 霊長類研究所
愛知県犬山市官林

編集 同研究所出版委員会

二木宏明
小山直樹
室伏靖子

印刷所 竹田印刷株式会社
名古屋市昭和区白金町2丁目8